

第13期

「京都教師塾」



November

平成30年11月17日

学びの広場

京都市教育委員会 教員養成支援室

第1回教育実践特別公開講座 講師：指導部 池田 忠 担当部長 「子どものいのちを守りきるための教師の責務」

11月3日（土）の午前に、初めての教育実践特別公開講座を行いました。この講座は喫緊の教育課題について学ぶ講座で、京都市の教員に採用が内定している方たちの研修にも位置付けています。この日も多くの参加があり、その中には卒塾生もたくさんいました。塾生と卒塾生が第13期教師塾の学びの場で共に高め合っている姿は、大変感慨深いものでした。

今回は、指導部の池田忠担当部長にお越しいただき、児童・生徒の現状やこれからの生徒指導等について、多くの事例を踏まえながらお話しいただきました。いじめについての現実を知り、胸が痛んだ人もいたと思います。また、「見方を変える」というメッ

セージが至るところにあり、はっとさせられた人もいたのではないのでしょうか。

最後に、教師として、さらには大人として必要な視点を教えていただきました。いじめの悲劇を繰り返さないために、「子どもを信じきる」ことを胸に留めておきたいものです。



第2回京都市教育学講座 講師：若手教員6名 「教師の喜びと厳しさ」



午後からは、京都市の小学校、中学校、高等学校、総合支援学校で、また小学校の養護教諭、栄養教諭として活躍されている先輩6名に来てもらい、現場の生の声を届けていただきました。

「教師にとって大切だと思うことは？」の問いに、小学校の先生は「子どもに寄り添うこと、食欲さ、一人で抱え込まないこと」、中学校の先生は「授業力、子どもを見る力」、高等学校の先生は「こうだと信じたことを思いきり楽しくやること」を伝えてくださいました。また、総合支援学校の先生は「学ぶ姿勢を持ち続け、自分の知識や実践力を高めていくこと」、小学校養護の先生は「迷ったら動く！を合言葉に行動し続けること、考え続けること」、小学校栄養の先生は「向上心、コミュニケーション、自分の心と体を大切にすること」とおっしゃっていました。厳しさやしんどさがたくさんあるにも関わらず、子ども達の成長を間近で見ている先生方の表情はとても生き生きとしておられるように感じたのではないのでしょうか。

分散会では「あなたのなりたい教師像は？」をテーマに、自分が子どもの前に立った時のことを想像し、今感じている不安や悩みなども出し合いながら、なりたい教師像について話し合いました。参加してくださったパネリストの先生に積極的に質問する姿も見られました。



仲間のレポートに学ぶ



第2回京都市教育学講座【講義】 「教師の喜びと厳しさ」を受講して

1 全体会

今回のパネルディスカッションから学んだことは、まず全ての先生が、先生の仕事を忙しいと感じているということです。大学や教師塾において、教師の仕事は大変だとよく聞きます。それを聞いているにもかかわらず、現場に入ると忙しいと感じるというのは、実際に現場に入ってみないと分からないような大変さがあるのだなと思いました。ただ、その忙しさの中にもやりがいや楽しさ、喜びがあるというのは、本当に教師の魅力だなと感じました。また、教師は常に学び続けることが大切だと感じました。教師自身が学び続けることによって授業力も高まり、それにより、教師の信頼感にもつながると思います。教師になってからこのことを意識するのではなく、今のうちから常に学び続けることを意識しようと思いました。

2 分散会

自分の課題として「コミュニケーション力」というのが、メンバー全員で一致した意見でした。コミュニケーション力は意識したからと言ってすぐにできるようになるというわけではないと思うので、今から少しずつでも自分からコミュニケーションをとれる場に踏み込んでいくことが必要なのではないかと感じました。そのためにも、先生方がおっしゃっていたように「迷ったら行動」という行動力も重要になってくると思いました。今回、全体交流において自ら手を挙げて意見を言う場面で、私自身、手を挙げることができませんでした。このような場面から、自らの意見をしっかり伝えていけるよう行動していきたいと思いました。

3 まとめ

今回のパネルディスカッションを聞いて、子ども達との信頼関係を築いていくには授業力が大切なのではないかと思いました。上手下手の前に、まずは授業をする上で子ども達が面白い、楽しいと思えるようなアイデアをたくさん吸収していきたいと思いました。そのためにも、教材研究を今の時間があるうちにしたり、ボランティアなどで実際に授業を行っている様子を見たりして、学ぶ機会をたくさん作れたらいいなと思いました。また、私の課題として挙げたコミュニケーション力をつけていくためにも、教師塾などにおいて積極的に自分の意見を伝えていきたいと思いました。

子どもは「先生は何でも知っている」と思っています。そんな先生に憧れる子どももいます。その期待を裏切ることはできません。教師は色褪せてはならないのです。だから学び続けます。パネリストの先生方が1年半の経験であれだけ話をされていたのも、学び続けておられるからこそです。

教師は「子ども理解」ということをよく言います。大切なことです。けれども、自分自身への理解はどうでしょうか。自分を変えようとせず、子どもの変容を望むのは教師の傲慢であると思います。あなたは自分をしっかり見つめようとしておられます。大事なことです。応援しています。



子どもたちの今と未来のため、社会のあらゆる場で
子どもたちに京都市民意識を実践しよう！

